

こども通信

塚田こども医院

小児科・アレルギー科
漢方内科
.....
上越市栄町 2-2-25
TEL 025-544-7777(代)
025-544-7779(保育室)
FAX 025-544-8456
.....

ホームページ
www.kodomo-
iin.com



時々今の季節が分からなくなりま
す。暑過ぎた夏から冬に向かつてい
る途中で、足踏み。半袖のシャツも
まだ出しておかないと。いずれ季節
が夏と冬しかなくなるのかな？

でも、もつすぐ冬の便りが来そう
です。冬支度を始
める時期になり
ました。

世界ではまた
大きな紛争が始
まりました。パレスチナのハマスと
いう組織がイスラエルを攻撃し、そ
れに反撃する形でイスラエルが猛攻
撃しています。

すでに死者数は一万人近くに達し
ていますが、その半数が子どもたち
だということです。幼い子どもの命が
無惨にも失われている現実、心が
痛みます。紛争の大義が何であれ、



子どもたちをはじめ、一般市民の命
や生活が脅かされる事態は避けるべ
きです。

この地域での紛争は長い歴史があ
ります。かつてパレスチナの地が大
国に支配される中で、ユダヤの人
たちは国を奪われ、世界に散っ
ていきました。国を持たない民
族。さらにナチスに迫害される
など、悲劇の歴史を持っていま
す。

第二次世界大戦後に、アメリ
カ合衆国が後押しをしてイスラエル
という新しい国を作りました。しか
し、住んでいたパレスチナの人を追
い出す形になり、次に第2の悲劇が
起きました。

以来、パレスチナとイスラエルは
紛争を繰り返しています。大国の思
惑もあり、紛争が収束する気配はあ
りません。

感染症情報

新型コロナウイルス感染症の発生は次第に減少し、大きな流行は終
わりました。しかしゼロになったわけではなく、一定の発生が続いて
います。周囲の発生情報に注意をしながら、感染予防の対応も継続し
てください。

インフルエンザは全国的に流行期に入っています。これだけ早いのは異例です。当地でも徐々に増加し、一部では登園自粛や学級閉鎖も
起きています。元々真冬に大流行になる感染症です。今後さらに大きな
流行になる可能性もありますので、注意してください。

感染性胃腸炎の発生数がやや多くなりました。多くはウイルス感染症
で、園や家庭内で集団発生することがあります。乳幼児は脱水や低
血糖を起こしやすく、ぐったりしている場合は早急な対応が必要です。

RSウイルス感染症や**ヒトメタウイルス感染症**といった気管支炎を起
こすウイルス感染症は少なくなりました。

しかし、やはり気管支炎症状を起こす**マイコプラズマ感染症**が次第
に目立つようになりました。年長の子どもたちがかかりやすい感染症
です。咳が強い場合は考慮する必要があります。

溶連菌感染症は少数ですが、発生があります。咽頭痛と発熱が主な
症状です。抗菌薬による治療が必要です。咽頭からの検体採取で迅速
検査が可能です。

ヘルパンギーナや**手足口病**といった夏かぜの流行はほぼ収束です。

でも、子どもたち
の犠牲はもうやめて
ほしい。直ちに休戦
を！
それができなけれ
ば、人道援助が行き
届くまで一時期でも
停戦を！
今こそ、世界は子
どもたちのために動
くべきです。

今月の予定

休診のご案内

11月4日(土)

※前日3日は祝日で、3連休になります。よろ
しくお願いします。

院長・副院長出務

わくわくちびっこ園健診 1日

有田保育園健診 1日

上越有線放送「健康ライフ」21日

FM上越「Dr. ジローのこども健康相談」
毎週木曜午後1:20頃～(76.1MHz)

感染症情報(毎週)

FM上越: 木曜午後1:35頃～

上越有線放送: 月曜午後6時～(番組内)

医院ホームページ内

事故予防

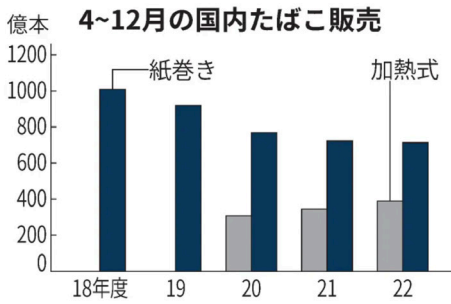
加熱式タバコも危険

タバコについては、医師として、そして小児科医としてはやめてもらいたい。その一言に尽きるのですが、それだけでは納得してもらえないかも。多少説明をしたいと思います。

●喫煙の実態

成人の喫煙率は、近年は減少傾向ではありますが、一定の方はまだ喫煙を続けています。

手元の資料では男性27・1%、女性7・6%、男女計16・7%(2019年)。かつては男性で50%ほどの喫煙率でしたので、比べれば以前よりは改善しているわけですが、減少ス



(注)加熱式の統計は20年度から開始
(出所)日本たばこ協会

ピードは鈍化し、なかなかゼロにはなりそうもありません。

女子では50歳代で増加傾向にあり、また若い方の喫煙も一定程度あります。

●タバコは有害

喫煙が健康にとつて有害なのは明白です。各種のがん(代表は肺がん)、虚血性心疾患(心筋梗塞、狭心症など)、脳血管障害(脳出血、脳梗塞など)、慢性閉塞性肺疾患、糖尿病、歯周病など、多数の、そして重い病気の発症に関係し、死亡率を大きく押し上げています。

タバコが問題なのは、煙の中に多くの有害物質が入っているからです。ニコチン、タール、一酸化炭素が3大有害物質と言われています。

ニコチンは血管を収縮させ、血流を悪くし、動脈硬化を悪化させます。依存性があり、一定以上の濃度では急死することがあります。

タールはヤニの成分で、発がん性があります。一酸化炭素は、体内で酸素を運ぶ働きを阻害し、酸素不足から動脈硬化などを起こします。

タバコの害は吸っている人だけに起きるわけではありません。煙には喫煙者が吸う「主流煙」、吐き出した「呼出煙」、タバコから立ち上る「副流煙」があります。周囲にいる人々はそれらがミックスした煙を吸い込んでしまいます。場合によっては「主流煙」以上に毒性が強いこともあるそうです。

喫煙者は本人の意思でタバコを吸っています(依存症になり、やめられない人もいますが)。言葉は悪いですが、いわば「自傷行為」は自分自身の責任です。

しかし、家庭内や職場などで、間接的にタバコの煙を吸ってしまう(受動喫煙)は、その人の責任ではありません。喫煙者による「他害行為」です。特に幼い子どもがいる環境での喫煙は罪深いものです。

●子どもの急性ニコチン中毒

ニコチンの致死量は大人は40~60mg、子どもは10~20mg程度。タバコ1本に10mg程度のニコチンが含有しているの、極めて危険だということをご理解いただけるでしょう。

ただ、ニコチンは難溶性(水に溶け出しにくい)ので、葉のまま食べても、早い時間に処置をすれば命を落とすことはありません。

ニコチンの急性中毒の初期症状は吐き気や嘔吐なので、食べたタバコの葉を吐き出すと、とくに処置をしなくてよい場合もあります。

●加熱式タバコはもっと危険

煙が出にくいことなどから、加熱式タバコが売り出され、全体の3割ほどの売り上げになっています。

小さなカートリッジに、紙巻きタバコのほぼ1本分のニコチンが入っています。

紙巻きタバコを1本丸ごと食べてしまうことはないでしょう。ところが加熱式タバコは小さいので、丸呑みにしてしまう可能性があります。つまり、加熱式タバコの方が子どもにとつては危険性が高いのです。

やはりタバコは本人にとつても、周りにも人にとつても有害。そして子どもたちには危険極まりありません。

やはり禁煙するしかありません。